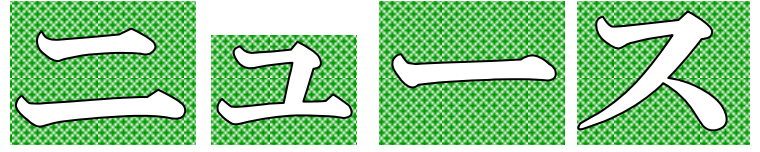


JR東労組 本部OB会



No. 252 2018年 1月発行

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川建三

新春クイズ

本部OB会は結成20周年を過ぎ、新しい10年に向かって歩み始めました

《 問題 》

もっと会員一人ひとりとのつながりを創り出し、「人に〇〇〇〇〇会」を目指します。

〔応募要領〕

〇の中に適当な文字を入れて下さい。

- ★ヒントは、「OB会ニュース」(NO.251)をよく読んで、答えを見つけて下さい。
- ★ハガキに答えと住所・氏名・OB会員番号を書いてご応募ください。

＜宛て先＞ ①151-8512

東京都渋谷区代々木2-2-6

JR新宿ビル13F JR東労組OB会

＜賞品＞ 正解者の中から抽選で33名の皆さんに下記の賞品を贈ります。

- 1等 3名 1万円のびゅう商品券
- 2等 5名 5千円のびゅう商品券
- 3等 10名 3千円のびゅう商品券
- 特別賞 15名 1,000円の図書券

＜応募締切＞ 2018年1月25日(消印有効)

＜当選発表＞ 次号No.253号(2月号)

2017年を振り返る本部OB会の これが10大ニュースだ これまでの総括し、新規活動がスタート

2017年は「森友・加計問題」や北朝鮮の「核ミサイル問題」、更に「衆議院解散」などで、日本の政治が大きく揺れ動いた一年でした。また本部OB会の一年も、結成から20周年の記念の年に当たり、今後の10年を見据えた新しい活動のスタートを切った年になりました。新年を迎えるに当たって、本部OB会はこの一年間のOB会活動で「10大ニュース」にまとめて振り返ってみました。

① 劇団文化座「命どう宝」公演を組織的に觀賞
2月に公演された文化座「命どう宝」を、「OB会結成20周年」と「沖縄支援第2弾」の取り組みとして、170名の会員が觀賞した。地方からの参加者も多く、「文化座友の会」に新加入する人もいて取り組みは成功した。

② 本部OB会結成20周年を盛大に祝う
1997年に3000名で結成

された本部OB会が20周年を迎え、会員証やパンフ類が一新された。記念総会には歴代の役員等130名が参加し、各地本部OB会に「OB会旗」が贈られるなど盛大に開催された。また地方でも、地本OB会結成20周年を祝う総会が開催され、大勢の会員が参加した。

③ 事務局体制が増強される
4月の本部OB会定期総会で、事務局次長が3名から4名に増員され、事務局体制がより強化された。

④ ソウル地下鉄労組に招待される
2012年に本部OB会が初訪韓し、JR東労組OB会の活動を紹介して交流を始めた。それから5年経った8月、ソウル地下鉄労組結成30周年集會に招待され、同労組に「OB会結成準備会」が出来た報告を受けると共に、今後の連帯強化も確認された。

⑤ 新たに支部OB会代表者會議を開催
8月下旬にブロック別に分かれて、初めて支部OB会の代表者による會議が開催された。これからのOB会活動が支部OB会の場に移る事に踏まえた會議で、約90名の役員が参加して積極的な意見を出し合った。

⑥ 今年も3地本OB会の交流
秋口にかけて東西の関東ブロックの3地本OB会が日帰り、上信越と東北ブロックの3地本OB会が一泊で交流会を開催し約230名が参加した。今年も、支部OB会とエルダー会員の参加者が目立った交流会となった。

⑦ OB会発行の本を紹介
郡山支部OB会の増子一美さん(ペンネームいわせかずみ)の「ジイちゃん、朝はまだ?」と、大船支部OB会の松山英司さんの「絵鳩 毅氏の証言集」を(つづく)

《 お知らせ 》

月刊「自然と人間」が3月号で廃刊になります

- ◇ 詳しくは、12月号の同封書類でお確かめ下さい
- ◇ 不明な点は、自然と人間社まで
TEL 03-3495-7189
FAX 03-5496-9020

「本部OB会ニュース」8月号と9月号で初めて紹介した。その結果、多くの地本OB会で話題になった。

⑧ 衆院選でOB会が奮闘

10月の衆議院選挙は、選挙の準備期間が少なく難しい選挙となったが、選挙カーに同乗したり選挙事務所に詰めたりして、推薦候補者の当選に向けて全力を挙げた。しかし衆院選の結果は、残念ながら安倍一強を崩せなかった。

⑨ 沖繩にカンパを届ける

11月下旬ブロック代表を含めた8名の代表団が、各地本OB会の定期総会で集めた「沖繩カンパ」を、辺野古新基地建設に反対している沖繩の人達に届けた。沖繩の退職者連合、9条連、平和運動センターの代表者と意見交換し絆を強めながら今後の連帯強化を確認した

⑩ 宇都宮支部OB会が再建される
凍結中だった宇都宮支部OB会が、12月9日に再建総会を開催し、新しいフレッシュな役員体制で再スタートした。これで全ての機関のOB会が揃った。

本部OB会の昨一年間は、「会員増加」の時代から、「会員減少・高齢化」の時代が来る事を見越して、その対策を立てる初年度になりました。その一つが会員が集まり易い支部OB会にするために、支部OB会の代表者との意見交換を行いました。今年も更に、その場を設け内容を深めていきます。

もう一つはJR東労組OB会以外の高齢者や団体との連携も強め、共通の悩みや課題解決に向けて一層頑張りたいと思います。特に沖繩の闘う高齢者を支援する取り組みは、今後も継続的に行っていきます。今年一年も全OB会員の協力を得ながら、健康で明るく元気な声を掛け合ってがんばってまいります。

わが町の 有名人

OB会
大宮地本
今回は、浦和支部OB会の鈴木登さんを紹介します。鈴木さんは、

昭和45年機関士になる事を夢に、下十条電車区の整備掛として就職し、国鉄改革を機に車掌職に転換して、池袋・丸の内・浦和の各車掌区を経て、エルダーとしてりんかい線乗務を最後に、65歳で退職しました。45年の鉄道人生の中で思い出すのは、下十条で強制配転反対のピ

エルダー担当者会議で 現役と連携でOB会強化を確認 エルダーの労働条件の改善も前進

12月18日14時より、本部の会議室で本部主催による「エルダー担当者会議」が、昨年に続いて開催されました。この会議は、従来は「エルダー組合員と中央本部役員との意見交換会」として開催されていたものです。

会議には奥山副委員長始め3名の本部役員と、全12地本のエルダー担当者が出席しました。

本部OB会も古川会長と伊藤事務局長が会議に招かれ、その場で12月にエルダー社員の賃金面等の労働条件が改善された事を確認し、今後現退一致してエルダー組合員の組合継続とOB会加入の取り組みを強める事が確認されました。

会議は、大塚組織担当部長（OB担当）を座長にして始まり、奥山副委員長の挨拶の後、加藤業務部長から12月に65歳定年制実現に向けた第一歩として、「エルダー組合員の労働条件の改善」が勝ち取れた報告がありました。（詳細は、12月8日発行の緑の風、号外を参照）

また本部OB会からは、古川会長がエルダー組合員のOB会加入に関するこの間の本部OB会での議論経過を報告し、現役役員の協力を得て「エルダー組合員の組合継続とJR東労組OB会加入」の取り組みを行いたいとの意見を述べました。

議論では、事前に中央本部に提出されていた「各地本のエルダーの組織化に関する取り組みと課題」に基づいて、全12地本のOB担当者から報告がありました。その中で、特に若年出向したままエルダーになる組合員の把握や関わりが難しい事や、役員経験の少ない若い平成採の担当者が、昭和採のエルダー希望者に関わる難しさ等、日々現実的に直面している悩みや課題が明らかになりました。

会議では、再度全機関で意志統一し全支部にエルダー担当者を決めて、従来より前倒しで取り組む事で「組合継続とOB会加入者」を増やす事が確認されました。

退職後、夢の機関士に

退職後の現在は、地元でボランティアのSL同好会に入り、石炭で走るミニSLの機関士をして活躍しています。地元のイベントで、沢山の笑顔の子供達を乗せて走る時、何よりの幸福を



感じるそうです。「退職してやっと機関士になる夢が実現したヨ！」と笑って語ってくれました。「平和な日本が危うくなっている。子供達の笑顔を見たい。子供達のために、今後もOB会をミニSLのように力強く前進させていきます」と、頼もしい言葉

もいただきました。イベントのない日は、OB会と9条連活動で忙しい毎日を送っている鈴木さんでした。（埼玉県新座市在住・鈴木 登・66歳）

宇都宮支部OB会が 再建総会

凍結されていた宇都宮支部OB会が凍結解除され、12月9日13時より支部事務所の会議室で「再建総会」が開催されました。

総会には、OB会活動の再開を待ち望んでいた大勢のOB会員と、地本や各支部OB会からの来賓ら総勢90名が駆けつけ、決意も新たにこう一年間の活動方針を決定し、雨谷副会長を新たに会長に選出して、フレッシュな新役員体制で再スタートしました。

第2部では、本部OB会の古川会長が宇都宮支部OB会の再建をお祝いし、約40分間の特別講演を行いました。総会後の懇親会は、この日のOB会の再建総会を心から喜び会員で、会場は大賑わいでした。

「我らの声」(第19号) 原稿締め切りは、 1月31日です!

- ◆ 作品は一人1編で1600字以内
- ◆ 各地本OB会に提出して下さい